

割高な寒冷地の工事費

舗装工事費は普通の三倍

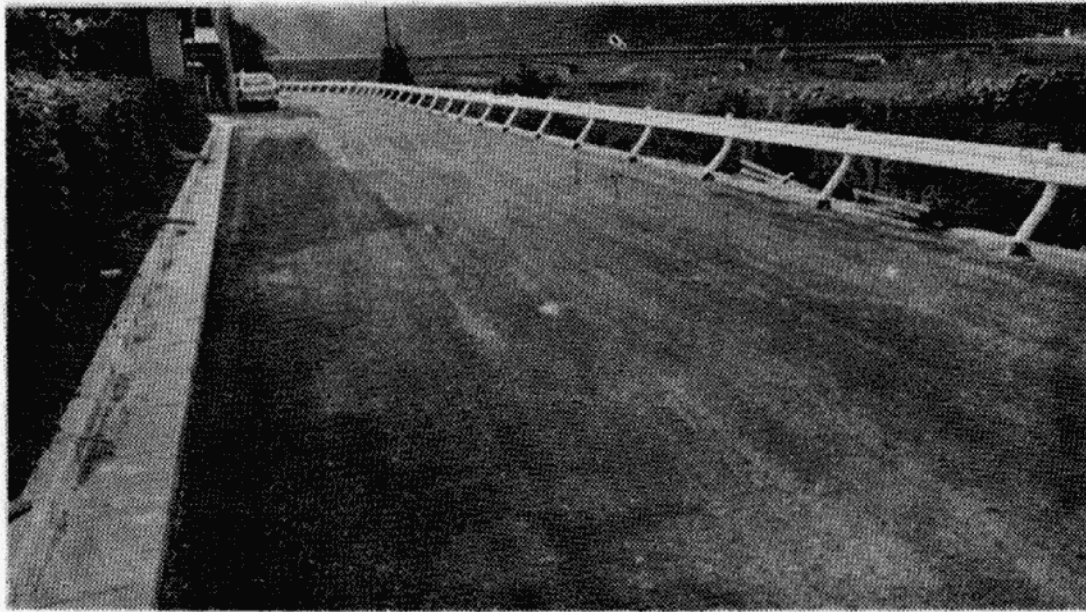
市道の総延長は約三六七キロですが、この中にはほとんど通行のない山道のようなものも含まれており、幅員四メートル以上の道路は六五キロ、その三分の一に近い一九キロはすでに舗装されており、今市市が幅員四・五以上の道路延長一〇六キロのうち舗装延長は一三キロであることなど比べ、本市の市道舗装率は決して低くはない。

市では毎年多額の予算を計上して市道の整備をすすめており今年度も総額約六、〇〇〇万円が、道路整備事業費として予算に組み込まれていますが、日光市のような寒冷地で、しかも雨の多い地域では、道路のいたみも早いうえに、舗装工事などはたいへん割高な経費がかかります。

100パーセント舗装をめざして……

現在の市道を全部舗装するには、幅員4メートル以上の道路だけでも、およそ6億円という膨大な経費がかかりますが、市では毎年多額の予算を投入して、舗装道路の伸張に取り組んでいます。

【写真は舗装間もない市道4号線】



りません。

というのは、既存の道路に単にアスファルト舗装しただけでは、冬期には路面がいてあがつて、ひと冬でデコボコになってしまうため、舗装の前に道路を掘り返し砂利を入れる、いわゆる「路床入れ変え」がどうしても必要なのです。

このため、お隣の今市市やそれ以南では一平方メートル七〇〇円から九〇〇円できるアスファルト舗装も、日光市では三倍近い二、三〇〇円もの経費がかかるわけで、仮に幅員四メートルの道路でも延長一キロ当たり六、〇〇〇円も高い工費を払わなければならぬのです。

深刻な財源難

一日も早く、市道の一〇〇パーセント舗装を実現するよう、安価でしかも堅固な工法の研究や財源の確保などに努力していますが、市道舗装に対し国の補助金を受けられる道路は、ごく

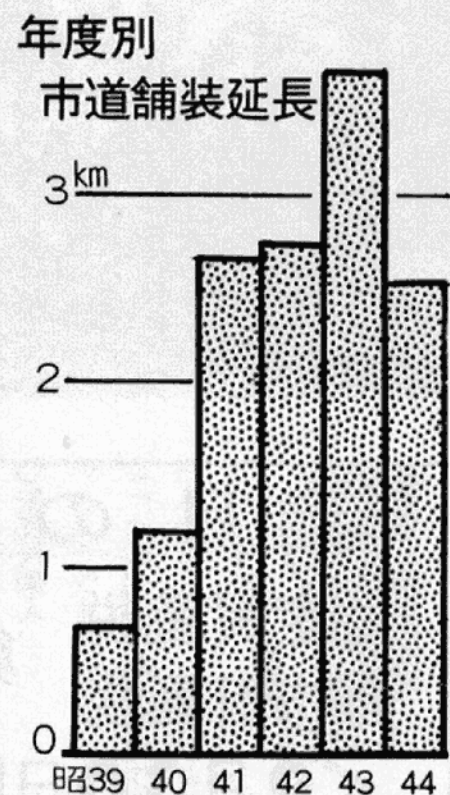
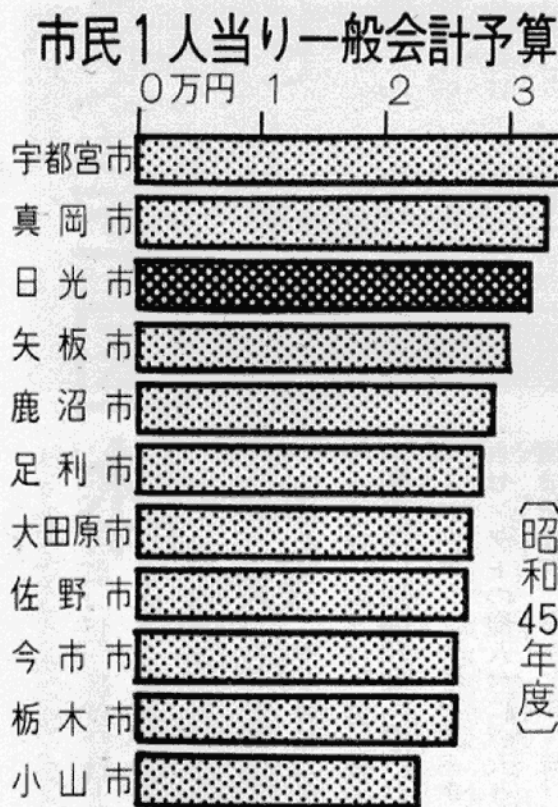
限られた部分でしかなく、ほとんどは市の単独費用で賄わなければならぬ。日光市は、市道だけでなく、県道や国道の舗装工事にも、年間約一、八〇〇万円の負担金を支出しており、四十四年度は市税の伸びが県平均一四パーセントをはるかに下回る六・五パーセントと低下しているなど、財源不足の悩みはたいへん深刻なものがあるのです。

ふえる行政需要

現在地方自治体が行なっている行政は、実に多種多様にわたっており、観光地という特殊性を持つ本市は、それだけになお複雑な行政需要をかかえているといえます。

「だれでも住みたくなる都市づくり」それは市政の最大の目標であり、住民の願いでもあります。本市では、それに加えて「だれもが行ってみたいくなる観光地づくり」もめざさなくては

〔昭和45年度〕



なりません。

しかし、この二つの目標を結びつけることは、決して簡単なことではなく、ときには全く相反することさえあります。急増する観光客は、市民の通勤、通学の足を奪いかねませんし、市営の体育施設を、市民にも、また市外から来る合宿学生にも利用させるためには決して十分とはいえません。市ではこの夏から稲荷町球場を市民のために確保するようにしましたがそれにしても、本来、市民のための体育施設を、ある程度観光的な意味で使用しなければならぬということ、本市の持つ特殊なやむを得ない要件として市民の皆さまにご理解と、ご協力を得なければなりません。

みんなの力で

住みよいまちに

現在、市役所には三四〇人の職員がさまざまな仕事についていますが、この人数は今市市の三八四人、鹿沼市の六六四人などと比べ、人口割りにすれば決して少なくないかもしれませんが、多様化する行政サービスの需要は、人口の動向には関係なく増大かつ高度化しており、先にふれた地理的要件などと考える合わせれば、皆さんの行政に対する要望を完全に吸収するには現在の職員数ではまだ不足とさえいえるのです。

もちろん市としては、機構の改善や、税務事務の電算化、水道料収金の民間委託など、事務能率のアップと省力化に努めるとともに、職員一同、いわゆる「お役所仕事」のそりを一掃すべく、与えられた職務に取り組んでおりますが、日光市が直面している数々の問題を解決していくには、市民のみならずの協力を得なければ、根本的な解決にならないものばかりです。私たちのまちを、市民みんなで発展させるよう、積極的に市政に参画し、問題の解決にご協力くださることを重ねてお願いいたします、この特集の結びといたします。